

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	旭区
学 校 名	大阪市立城北小学校
学校長名	下山 敦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・城北学校では、第6学年 41名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度の平均正答率は、国語科においては全国平均を6.7ポイント下回り、算数科においては、全国平均を9.4ポイント下回る結果となった。

平均無解答率については、国語科においては全国平均より0.3ポイント低く、算数科では全国平均より1.2ポイント高くなった。国語科において、日々の授業の中で課題に対して粘り強く取り組み、解決しようとする姿勢を育ててきた成果が出てきているといえる。

今年度は国語科を研究教科とし、教員の指導力をさらに高め、児童の国語力の向上に努めたい。また、算数科においても、引き続き基礎基本の定着を図るとともに児童の苦手な分野を分析し、個に応じた指導・支援に取り組むことで児童全体の学力の向上を目指していく。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

国語科では、全国平均正答率が6.7ポイント下回っているものの、前年度と比べて、対全国比が0.88から0.90と改善した。平均無解答率も対全国比で+2.8から-0.3と大幅に改善している。これは日々の授業の中で、国語科の学習に意欲を持ち、自分は解決することができると、実感的に学ばせてきた成果だといえる。また、「話し合いの様子」を読んで、何に注目しているのかを問う問題や自分の考えを記述する問題などでは、全国平均値を超える得点を出しており、話題の視点を意識し、自分の考えを持つことがよくできていると言える。一方で、複数の資料を目的別に分類したり、関連付けたりする問題や、登場人物の心情を描写から読み取る問題など、文章の内容を正確に読み取ることに課題がある。

〔算数〕

算数科では、平均正答率が全国より、9.4ポイント下回り、対全国比は0.90から0.85と下降した。無解答率は対全国差で、1.2ポイント高かった。全ての領域で、全国平均に比べ10ポイント近く開きがあり、課題になっている。基礎的な力を身に付け、低学年から学習内容の確実な定着を行うために授業改善が必要である。一方で、記述式の問題については、対全国差が昨年度-9.2であったが、今年度-5.6と改善した。国語同様、自分の考えを記述することには、一定の成果が見られる。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」の質問項目において、肯定的回答が84.2%と昨年度の68.1%より大きく改善し、全国平均に対しても、わずかに上回る結果となった。また、「将来の夢や目標をもっていますか」や「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目でも全国平均値を大きく超える肯定的回答をしている。これらの結果から、本校の児童は、自己肯定感や自己有用感をもち、社会や他人に貢献したいという社会奉仕の意欲を強くもっていることが伺える。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」や「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の項目で全国平均値を上回るなど、納得的に合意形成をする経験を積み、自他を認め合う学習集団の育成ができていているといえる。低学年からの人権教育を基盤とした集団育成、仲間づくりが実を結んでいる結果だといえる。

今後の取組(アクションプラン)

- 人権教育を基盤とした「仲間づくり」と「学力向上」を今後も全校で行う。
- 研究教科を今年度は国語科に設定し、児童の実態を基にした課題設定や、発問の工夫、様々な交流の場の設定による話し合い、学習の振り返りを充実させる授業研究を行う。
- 「学力アップアシスト事業」を活用し、今後も基礎基本となる学力の定着を図るとともに、個に応じた指導・支援の充実を図り、きめ細かい指導を継続して行う。
- たてわり班活動をはじめとする異学年交流を積極的に行い、自己の役割意識や自己有用感を高めることで、自己肯定感の向上に努める。
- 課題解決に向けて粘り強く取り組む児童の育成を目指し、探究的活動や問題解決型学習を取り入れた授業改善に取り組んでいく。
- ICT機器を効果的に活用し、個に応じた学習や協働的な学びにつなげる。

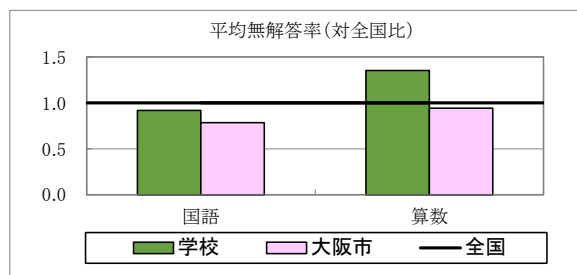
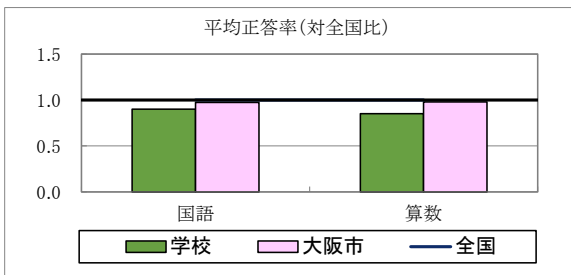
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	61	54
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	3.9	4.6
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4



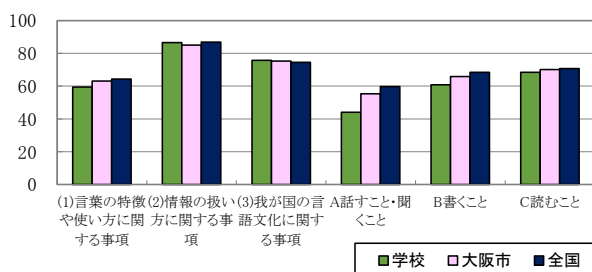
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	59.5	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	86.5	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	75.7	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	44.1	55.3	59.8
B 書くこと	2	60.8	65.9	68.4
C 読むこと	3	68.5	70.1	70.7

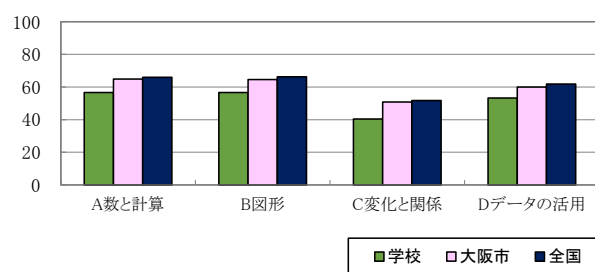
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	56.6	64.8	66.0
B 図形	4	56.6	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	40.4	50.8	51.7
D データの活用	4	53.3	60.0	61.8

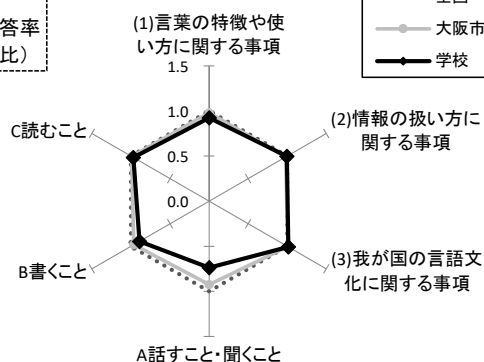
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



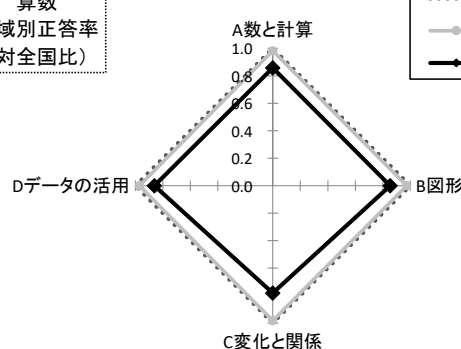
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)



児童質問より

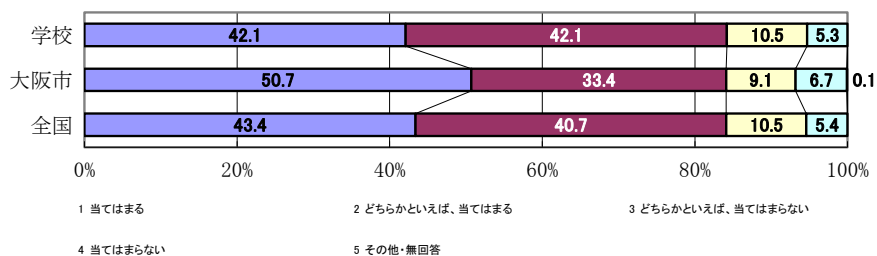
質問番号

質問事項

9

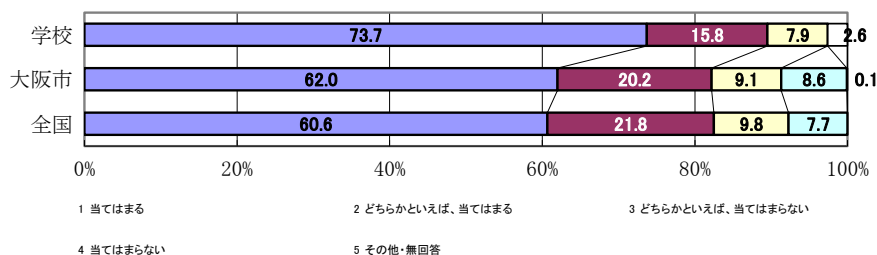
自分には、よいところがあると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



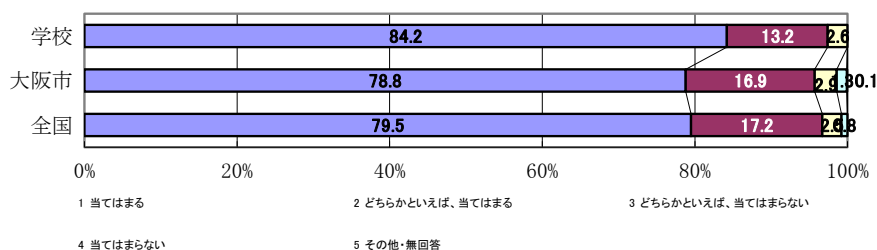
11

将来の夢や目標を持っていますか



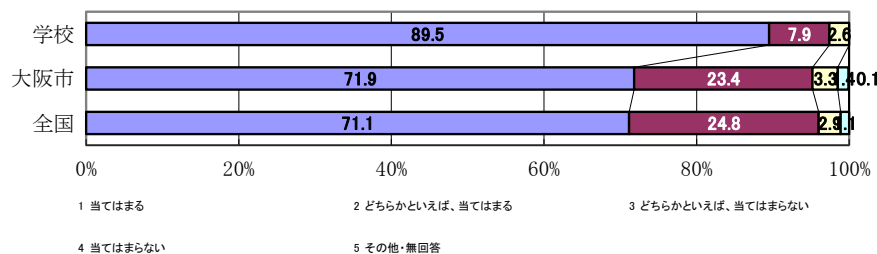
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



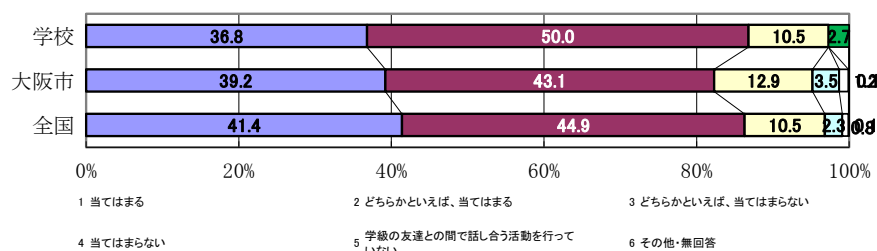
15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



学校質問より

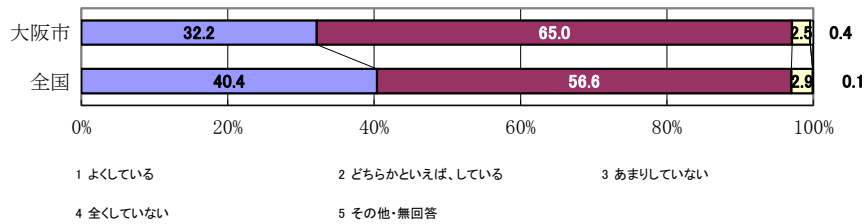
質問番号

質問事項

13

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

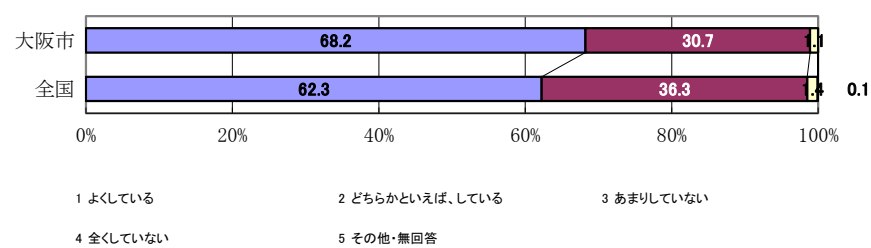
学校 「よくしている」を選択



16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

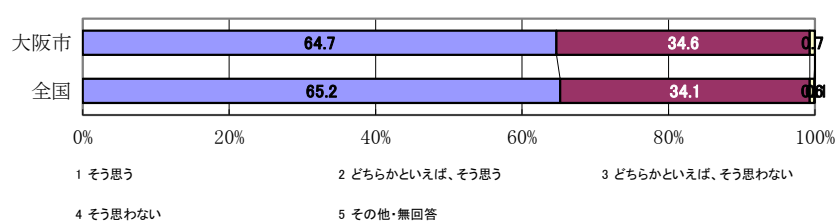
学校 「よくしている」を選択



20

学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか

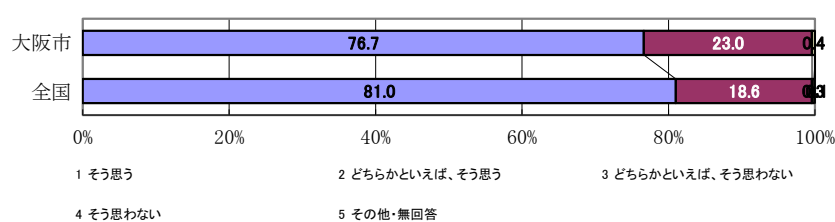
学校 「そう思う」を選択



21

各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか

学校 「そう思う」を選択



53

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

